

コロラド州：小麦作柄と気象状況

2005年7月26日

2005年7月24日現在：

7月24日に終わる1週間のコロラド州の気象は、高温・乾燥気象であった。最高気温は各地で100度Fを超え、平年を上回る気温と強風が土壌水分を大幅に減少させた。1週間の州平均農作業稼働日数は6.8日(前週:6.7日)であった。快晴と高温が続き冬小麦の収穫が進み、全州の98%にて収穫が完了した。昨年並びに5年平均より早い進展であった。作柄評価は前週より多少評価が上がった。既に冬小麦は収穫の最終段階であり、気象の変化は品質・単位収量に殆ど影響を及ぼさない状態と言える。部分的なサンプルの分析結果であるが、容積重：59.0 lbs/bu、蛋白質：13.4%(州北部)の報告があった。

2005年7月1日付けUSDAの冬小麦生産量予想では、単位収量は6月1日予想より5 bushels 減少し、27.0 bu/acとなった(2004年産実績：27.0bu/ac)。昨年実績と等しくなった。5月の天候不順が登熟を遅らせ6月中旬からの水分不足がマイナス要因と考えられる。詳細は別表の通り。

土壌水分：7月24日現在

	Very Short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	28	47	25	0
Subsoil (%)	25	47	28	0

生育状況：7月24日現在

	This Week	Last Year	5-Yr Ave.
Harvested (%)	98	92	93

作柄状況：7月24日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This week (%)	5	19	55	18	3
Last week (%)	11	21	45	18	5

Source：Colorado Agricultural Statistics Service

7月1日付けUSDA生産量予想(冬小麦)

State	Area Harvested 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
June 1				July 1			
CO	1,700	2,400	27.0	32.0	27.0	45,900	64,800
USA	34,462	34,271	43.5	44.1	44.5	1,499,434	1,525,302

当該作柄レポートに関するご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

小川正晃 : Email ogawa.max@omicnet.com